

「子供の森」計画

in フィリピン



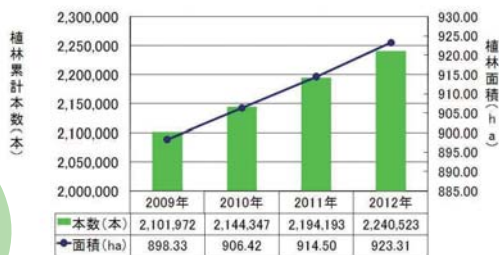
2012年の活動と2013年の展望

子どもたちの「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。フィリピンでは2012年3月に、オイスカとフィリピン政府が協力して「子供の森」計画を推進していくことを約束した基本協約を更新しました。フィリピン政府側は環境天然資源省、教育省、国家ボランティア調整局、農業省の4つの機関が署名しました。これはフィリピン政府が「子供の森」計画を高く評価していることや、環境教育にとどまらず地域社会における農業等の自然共生型の生計活動の発展への貢献を期待していることの証ともいえます。こういった政府との良好な協力関係もあり、フィリピン

ン北部から南部まで広い地域で「子供の森」計画を実施しています。また、それぞれの地域の環境やニーズに合った活動を展開できるよう、スキルアップ研修を行うなど地域の指導者（コーディネーター）の育成にも力を入れています。これからもそれぞれの地域に合った郷土樹種の植林活動や環境保全活動を通じて、子どもたちに地域の生物多様性を守り育みながら豊かに生きていく術を教えていきたいと考えています。

2012年植林実績：植林 47,580 本・面積 8.81ha
「子供の森」計画参加学校数：1,047 校（1991年からの累計値）

2012年までの植林実績



フィリピン

- ◆人口：95.856百万人（2012年IMF推計値 日本は127.896百万人）
- ◆面積：300,000km²（総務省統計局資料2010年値 日本は377,950km²）
- ◆一人当たりGDP：2,344.889US\$（2012年10月IMF試算値 日本は45,869.72US\$）
- ◆森林率：26%（2010年FAO公表値 日本は69%）



フィリピンの活動を支援して下さる方を募集しています。ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

ベルマークや書き損じはがきも募集しています。
ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。事務局までお送りください。

「子供の森」計画情報提供サイト
www.kodomonono-mori.info



事務局



〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111
<http://www.oisca.org/>

E-mail oisca@oisca.org



7つの学校が合同でグリーンウェイブ植林

国連が国際生物多様性の日(5月22日)に世界中で一斉に植林をしようと呼びかけている「グリーンウェイブ」に、アブラ州の「子供の森」計画に参加している学校は毎年積極的に参加しています。今年は、この記念すべき国連の活動にぜひ参加したい、と多くの学校から声があがりましたが、ある学校では植林のための用具がなかったり、学校間の距離が遠いためにコーディネーターが同日に複数の学校を訪問できなかつたりと様々な問題が出てきました。そこで2012年は希望する学校から代表児童を1カ所に集め実施することにしました。アブラ州の7つの学校の代表児童生徒51名が集まり、65本のインドシタン、20本のマンゴー、15本のココナツと100本のマホガニーを植えました。

このイベントには州政府も関心を持ち教育省から15名が参加し、子どもたちの活動の様子を見守りました。子ども

たちは多くの樹種を植え育てる必要性や生き物のつながりについて勉強しながら植林をし、また支柱を立てたり水やりをしたりなど、懸命に植林活動を行いました。



手に多種多様の苗を持ち植林に向かう子どもたち



広めよう!緑を愛する活動を!

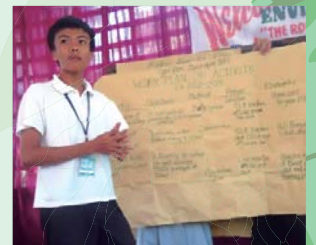
この学校では、子どもたちがラブグリーンクラブという組織を作って「子供の森」計画の活動をしています。このクラブのメンバーで3年生のホセ・セフィルくん(15歳)は、学校内での活動だけでなく海岸の清掃活動にも参加するなど、友人たちと一緒に熱心に環境保護活動に取り組んでいます。海岸で、以前オイスカが植えたマングローブの森に魚や鳥がたくさん住んでいるのを見て感動したというホセくんは、その感動を学校のほかの子どもたちにも知ってもらいたいと、日々奮闘しています。

今年、ホセくんたちは、「子供の森」計画の活動の一環でもっと自然環境を知ろうと盆栽づくりに挑戦しました。海に近いこの地域らしく、盆栽は鉢植えではなく水の入ったビンに入れられ、「ウォーター盆栽」と名付けました。初めての体験に興奮しながらも、「みんながウォーター盆栽を

見て目を輝かせ、笑顔になる姿をみるとうれしくなりました」というホセくん。今後は学校の仲間たちももっと自然を好きになってもらえるよう活動を広げていきたいと考えています。



子どもたちが作ったウォーター盆栽。入れ物もペットボトルなどのリサイクル



ラブグリーンクラブの活動を全校生徒に説明するホセくん

TOPICS

台風の被害を軽減するために

2012年12月、フィリピン南部を超大型の台風24号が襲いました。最大風速が約50メートルにもなったこの台風は、ミンダナオ島各地で鉄砲水や土砂崩れなど甚大な被害をもたらしました。フィリピンは台風の通り道になっており、毎年のように各地で洪水や土砂崩れなどを引き起こし、その被害は深刻です。また最近気候変動の影響が、台風が発生する時期や通るコースがこれまでと変わってきており、それも被害を大きくする一因となっています。

「子供の森」計画では、こうした台風による土砂崩れなどの被害を最小限にするためには、山の保水力を高めること、つまり植林を行うことが重要だと子どもたちに教えています。



2005年から「子供の森」計画に参加していた学校も、土砂で校舎が壊れてしまいました